

(様式2)

令和 4 年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1590101372		
法人名	社会福祉法人苗場福祉会		
事業所名	グループホームこもれびの家		
所在地	新潟市中央区本馬越2丁目15番34号		
自己評価作成日	令和4年10月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会 外部評価機関「あいエイド新潟」		
所在地	新潟市中央区上所2-2-2 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	令和4年11月30日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>平成27年5月1日に開設し、7年が経った。お客様主体となれる環境づくりを目指し、センター方式を活用しながら日々ケアについての振り返りなどを積極的に行っている。お客様の健康管理では、部署内や嘱託医、ご家族との連携を密に行い、体調不良者や入院者が出ないよう努めている。レクリエーション活動では、お客様や職員皆が楽しめるようなイベントの企画を行い、ご家族へのご報告、ご相談もこまめに行っている。体調の変化だけでなく日常の様子や、楽しまれていること、喜んで下さった出来事なども共有できるよう情報を発信している。</p>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>新潟市内の住宅街にあり、同法人が運営する地域密着型特別養護老人ホーム、小規模多機能型居宅介護施設を併設した3階建ての建物内の1階に位置している。</p> <p>コロナ禍前は、1階の地域交流室で体操教室や認知症カフェを開催したり、ボランティアの訪問、近隣の小学校との交流、イベント時の地域住民や家族の参加などが行われていた。コロナ禍の中でも、家族から介護教室開催の希望を受けて開催したり、小学校に介護教室の出前講座の講師で出向いたり、できる範囲で交流を行っている。</p> <p>管理者、職員はいつも、利用者はもとより、家族の思いや意向を反映し、その一人一人に寄り添うためにケアプランにも取り込みながら実践に努めている。今年度からは部署目標に「おいしい食事を作ろう」を掲げて、利用者と一緒に食事作りに取り組んでいる。家族との関係も大切にして、毎月お便りに写真を入れたり、電話で様子をお伝えしたりしている。若年性認知症の方の入所も受け入れ、今まで自宅で介護してきた配偶者が安心して仕事に復帰したケースもある。</p> <p>毎日のミーティングや部署会議で常に職員間での話し合いがなされ、ケアについて分析・検討し、次につなげるなど努力している。また、職員が話しやすい職場環境が作られ、風通しの良い運営に取り組んでいる。</p>
---

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である「自らが受けたいと思う、医療と福祉の創造」を念頭に、お客様の健康管理や職員育成に取り組んでいる。朝礼時には理念の復唱を行い、研修などの場面でも理念と結び付けた内容で職員育成が行われている。	朝礼で法人理念を唱和している。以前は複合施設全体で集まって朝礼をしていたが、コロナ禍では全体で集合せず、各部署をオンラインでつなぎ朝礼を行っている。毎月の部署会でも理念に沿ったケアを行えているか振り返っている。また、今年度は部署目標として「おいしい食事を作ろう」を掲げて職員一丸で取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防を行いながら、8月9日には家族介護教室を実施。実習生の受け入れなども行っている。	コロナ禍で地域との交流が十分できない中であるが、家族参加の介護教室を実施することができた。また地域にある小学校の6年生に介護に関する出前授業を実施し、理解を深めてもらうこともできた。介護や調理の専門学校からの実習生も受け入れ、少しずつであるが交流が再開できつつある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルスの感染状況により、制限はあるものの、認知症カフェの開催や認知症サポーターの育成を実施。また、希望のあったご家族へは、認知症についてやケアの方法などをお伝えしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は感染状況に考慮し短時間での開催や書面開催など臨機応変に開催を行っている。施設内で運営されている特養、小規模多機能型居宅介護と合同で実施し、お客様も参加。ブログやInstagramの情報発信内容も参加者にご覧いただき情報共有を行っている。	コロナ禍では書面開催が多かったが、今年7月から対面での開催ができています。利用者にも参加してもらい、「コロナ禍で職員は感染対策に頑張っている」と職員が励まされる発言もあった。会議録は職員に回覧し情報を共有している。家族にも毎月のお便りと一緒に会議録を郵送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にて事業所の運営状況の報告や、小学校の高齢福祉の授業への協力なども予定し、活発な意見交換が行えている。	行政担当者とは、コロナ禍における面会制限や感染対策等についての連絡、加算等に関する相談、オンラインやオンデマンド配信の研修案内をもらうなど、密に連携している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待・身体拘束防止委員会を設置しており、委員会主催で年2回勉強会を実施。センサーマット等の介護機器についても使用の必要性を毎月部署会議にて検討を行い活用している。	『高齢者虐待・身体拘束防止委員会』を設置して年2回委員会主催で研修会を開催し、身体拘束を行わないケアを実践できるように取り組んでいる。赤外線人感センサーの設置についても、毎月部署会議で検討している。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は毎年高齢者虐待防止研修に出席。不適切ケア報告書の活用や、事例を通してグループワークを行い自身の接遇の振り返りを行っている。定期的なストレスチェックの実施や法人全体で保健師を配置し、いつでも相談が行える体制がとられている。	高齢者虐待防止研修は、委員会主催で実施している。不適切ケアについても委員会で検討し職員に意識付けを行い日々のケアに活かしている。定期的に職員のストレスチェックを行うとともに、法人内に保健師を配置して適時面談・相談ができる体制になっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度を活用する事例はないが、必要に応じて権利擁護に関する制度の活用の必要性を認識できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご契約時には、契約書、重要事項説明書等の説明を行い同意を頂いた方に署名捺印をいただいている。施設ご利用時におけるリスクの説明や加算、報酬改定などについても随時ご説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年法人で行っているお客様アンケートにてご意見ご要望をいただき、改善策を検討の上、書面にてご報告を行っている。3か月に1度のモニタリングの際や、受診、往診内容のご報告の際にもご意見やご要望を伺い対応を行っている。	毎年お客様アンケートを実施して希望や意見をいただいている。受診時や面会時等も丁寧に対応して家族から意見や要望をお聞きしている。家族からの希望により、少人数であったが介護教室を開催することができた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月実施している部署会議や、日々のミーティング以外にも勤務表作成時には面談が出来るよう調整を行いながら勤務を組むことで、職員個々に意見や提案をしやすい機会を設けている。個人目標を上期下期立案し、定期的な面談を行うことで進捗確認をしながら運営に反映できている。	日常的に職員が意見を言いやすいように環境を整えている。月1回の部署会議においても積極的に意見が出されている。また、個人目標を立案して上期、下期に定期面談を行いそれぞれの進捗状況について確認する仕組みがある。中途入職者の環境への配慮やパソコン操作の不慣れな職員への対応など個々に合わせて面談している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回(12月)自己申告書で仕事(就業)に関する意向調査を実施。意向に沿った就業が出来るよう配慮を行っている。有休についても個々の要望に合わせ、取得出来ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業方針に基づき、各職員が目標を設定し、職員のスキルに合わせた研修受講を計画的に行っている。研修スケジュールを一覧化し研修の目的や動機付けを行った上で、各自研修に参加できている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染予防の為Zoomやeラーニングも活用し研修に参加している。新人職員フォローアップ研修や育成研修、介護技術研修など積極的に参加している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談受付の場面から、ご本人様やご家族、前任のケアマネージャーとも情報共有を密に行いながら関係性作りに努めている。施設見学が難しい状況下でも、web見学や中庭からの見学なども行った。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	センター方式の活用を行うことで、ご本人様の思いや生活歴を伺いながら、ご家族の思いにも目を向けることで共にご本人のケアを行っていきけるような関係性づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームというサービスに縛られず、複合型施設の特徴を活かし、お客様、ご家族のニーズをアセスメントした上で必要なサービスを見極め、ご案内できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自身でできること、支援が必要なことをしっかりとアセスメントを行えるよう、日々のミーティングではインシデント内容の報告や、3か月モニタリングの際にはアセスメント表の見直しも行い出来ることを尊重しながらケアプランに沿ったサービス提供を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	体調変化に応じたご連絡だけでなく、日常の様子やご本人様からのご希望もお伝えし、企画内容のご相談等ご家族にもご協力いただける部分も大切にしながら支援を行っている。また、面会制限がある中でも、お電話やWEB面会、窓越し面会等の機会も設けている。	コロナ禍前は利用者の希望に応じた外出や、衣替え等に家族からも役割を担ってもらっていた。毎月、生活の様子の写真を撮り家族にお便りを送っている。また、毎月家族への電話もしており、利用者と話をしてもらったり、様子を伝えている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会制限がある中でも、ご家族だけでなく、県内のご友人やご親戚の皆様との面会も感染状況に応じて対応を変え行っていることで、皆様の楽しみに繋がっている。また、文通や希望にてご家族様宛にお誕生日カードをお客様と作成しお送りさせていただいた。	コロナ禍前は、面会時はゆっくり過ごしてもらるように配慮していた。現在は窓越し面会だが、孫やひ孫等の面会もできている。併設する小規模多機能施設で友人と過ごしたり、ショートステイ利用の友人と面会したり、可能な範囲で馴染みの人との交流を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お食事の席の配慮や、会話の仲介を行いながら良好なコミュニケーションが図れるよう支援を行っている。家事作業も通して、お客様同士が協力し合いながら、お話を楽しまれ、環境を整えている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の継続や、他施設へご利用が変更になったお客様については、ご利用中のご様子をまとめお渡しすることや、状態説明の際に管理者が立ち会うなど、ご家族様のフォローにも関わらせて頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お出かけの際や普段の会話の中からでも表情や言葉などからご希望やご意向をくみ取れるよう努め、センター方式の活用も行っている。企画に反映することでご希望を叶えられるよう努め、モニタリング時にもご本人様に同席いただきご意向確認を行っている。	本人はもちろん家族からも意向や希望を聞き取り、部署会議で支援方法を確認している。言葉での表出が難しい利用者は、表情、言動等から汲み取って支援している。職員間で情報が共有できるように記録し、申し送り時やミーティングでも確認し合っている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談やご契約時にはセンター方式を活用しご家族からも情報をお伺いしている。前任のケアマネジャーからはケアプランの内容を伺いながら情報収集を行い、担当者が実際に目で見えた情報もあわせて環境やケアプランの作成、検討、妥当性確認を行っている。	コロナ禍で入居前の自宅訪問は控えているが、入居時の送迎時などを利用して状況把握に努めている。また、入居後にスムーズに生活できるように、生活歴や身体状況などは、それまでの担当居宅ケアマネジャーや利用していたサービス事業所からも情報収集している。家族には、「センター方式」のアセスメント様式の記入をしてもらい、情報の把握に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護ソフトを活用しケアプランに沿った記録を行いながらお客様の状態把握や経過の情報共有を行い、往診や受診前にもミーティングにて状態把握を行っている。部署会議ではケアプラン内容の評価を行い、随時変更を行えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アクシデント発生時には全員でシェル分析を行い、ケアプランの変更を行っている。部署会議にてモニタリングを行いながら妥当性確認を行い、担当者会議にてご本人やご家族様へご提案を行っている。	入居時には本人、家族も担当者会議に参加してアセスメントしたうえで、暫定プランを作成している。入居後1ヶ月間の生活状況を観察しながら、職員間で話し合い、確認して正式プランに切り替えている。3ヶ月毎にモニタリングを行い、半年に1回見直しをするほか、状況変化時は適時変更している。コロナ禍で家族から担当者会議へ参加いただけない時は、受診等での来訪時や電話で説明し確認したうえで、職員間でも意見を出し合っプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々介護ソフトでの実施記録を活用しケアプランの実施を確認し、部署会議やアクシデント発生時には随時ケアプランの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて他部署との連携や訪問販売の活用、受診同行、毎日のメールでの様子報告等行うことでお客様、ご家族様のニーズに対応が出来る。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染予防の為、制限がある中ではあるが、運営推進会議にお客様も参加され、民生委員の方との交流や近所への外出時には地域のお子様との会話等も楽しまれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診時や突発的な受診の際にはご家族と受診先のご相談や情報提供用紙を用いて状態報告を行っている。診察後、ご返信をいただき、内容をご家族、介護職員で確認を行うことで主治医からの指示内容の確認を実施している。	事業所の協力医以外への受診は、コロナ禍であるが家族の協力を得ている。受診時には情報提供用紙を持参してもらい、医師からの返信により指示を得ている。協力医の往診は原則月1回あり、往診前にミーティングを行い利用者の状況を伝えている。必要時も随時指示を得ている。家族にも往診の状況を報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定と健康状態の把握に努め、体調不良時には速やかに看護師や主治医へ報告を行っている。介護ソフトでの記録にて看護師は訪問時に1週間ごとの様子を把握し、情報共有を行っている。経過に関してもご家族へご報告を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には情報提供を行っている。また、1週間以上の入院の際は定期的な訪問または、ご家族や病院へご連絡し、お客様の回復状況の把握を行っている。退院予定日や退院後の受け入れに関して病院職員やご家族に確認の上、受け入れを検討させて頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合における対応に係る指針」を制定し、ご契約時にはご本人、ご家族へご説明を行っている。担当者会議の場面などでご意向確認を行いながら、重度化した場合には住み替えを支援している。	入居契約時に「重度化対応に関する指針」について説明を行っている。利用者の状態変化に応じて、利用者・家族がともに不安を抱えないよう早めに話し合いの機会を持つように支援している。事業所での看取りは現在行っていないが、今後の課題として検討している。住みかえ等が必要な場合もスムーズに移行できるように支援している。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内でも救急救命講習を設け新卒職員が受講。部署内でも手順書の確認を実施し、緊急時には他部署や宿直担当者との連携が図れるよう仕組みを構築している。主治医とも連携し早めの受診を心掛けている。	急変時等のマニュアルが整備されている。救急車要請や夜間等の家族への連絡体制などもわかりやすくフローチャート化し、救急搬送時に持ち出すためのカバンも準備している。コロナ陽性者が出た場合の対応についても、担当委員会により対応セットを作成し、ガウンテクニックなどの勉強会を実施している。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を実施。昨年度は水害訓練にて階段昇降も実施した。お客様全員避難訓練に参加。居室の表札には避難誘導方法を明記することで応援職員にも分かりやすくなるよう工夫を行っている。アプリケーションを活用し通信訓練も今年度は行っている。	複合施設内の各部署合同で防災委員会を設置し、年2回、夜間想定を含めた防災訓練を実施している。各居室の表札にその利用者の避難誘導方法が書かれており、他部署からの応援職員が避難誘導を行いやすく工夫されている。水害時等は避難所への避難でなく垂直避難で対応することを行政にも報告している。自家発電装置もあり、備蓄も水や食料は栄養課、医療用品は看護室等で準備している。	各種災害別のマニュアルは整備されているが、職員がいつでも見やすいようにさらに工夫することが望まれる。また、地域の防災体制の確認と協力関係の構築なども、運営推進会議等で検討されることを期待したい。個々の利用者の身体状況に合わせてさらに不足品をリストアップして各部門が情報共有するなど、災害対策のさらなる発展に期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇や虐待防止の勉強会を毎年受講し、各自対応に困っていることを日々のミーティングや部署会議にて共有し、ケアの見直しを検討することで日常のストレス緩和に繋げ、不適切ケアを予防している。こやまケア委員会では毎年接遇コンテストを実施し、質の高いケアを実現できるよう取り組んでいる。	接遇研修は毎年実施し、トイレ誘導等の声かけは特に留意している。申し送りや職員間の会話も、利用者の氏名を用いず、部屋番号で話すなど工夫している。対応で困っていることは随時ミーティングで検討し、より良い支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	センター方式の活用やイベント企画を通してお客様の要望や自己決定の大切さ、認知症のケアを日々職員も学んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴日の調整や、外出希望など臨機応変な対応を心掛けており、お客様個々にご本人のペースにて過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの準備や整容時にはお話をしながら準備をさせていただくことや、お洒落がお好きなお客様と一緒に髪飾りのお買い物に行くなど、その方らしいお洒落や身だしなみの支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けに加え、食事作りやおやつ作りにも少しずつ取り組んでいる。献立は業者を活用しているが、行事食やセレクト食、嗜好調査もあり皆様食事を楽しまれている。	今年度から食材・献立とも業者に依頼している。朝食は職員が手作りし、昼・夜のご飯、みそ汁は事業所で作り提供している。リクエスト食や行事食は、職員が手作りしたり、テイクアウトを利用するなどしている。おやつも手作りしたり、訪問販売で好きなものを買ったりして楽しんでいる。利用者は、手袋をして職員と一緒に惣菜を作る手伝いをしたり、テーブルを拭いたりなど、できる範囲で参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々食事量や飲水量を把握し記録に残している。飲み物の種類を豊富に備え、ゼリーを作るなど工夫を行っている。また、お買い物にてお好きな食品を購入いただき食べたいものを食べていただけるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科にて毎月口腔内の確認や口腔ケア方法の指導を受けている。指示書を基に食後の口腔ケアを促し、支援を行っている。訪問歯科日以外にも必要時には追加訪問にて診察を行っていたり口腔内の清潔保持を行えている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を行い、お一人おひとりの排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っている。下剤の調整も都度主治医へ相談を行いながら調整を実施。お客様の仕草や言葉も意識しながら支援を行っている。	トイレは3か所あり、すべて車いすに対応した造りとなっている。原則トイレで排泄ができるよう支援し、排泄状況は個人チェック表に記録して把握して一人ひとりに合わせた声かけや誘導を行っている。下剤等の調整により排泄の失敗が減った方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	より自然排便に近いお通じを目指し、水分提供や体操の実施、家事作業にて身体を動かす機会も多く設けている。また、主治医と相談を行いながら内服薬の調整も密に行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴予定表はあるが、その方のお気持ちに沿った臨機応変な対応を行っている。好みのお湯の温度や時間帯、細かな意向を把握し職員間でアセスメント表、ケアプランを用いてケアの統一を行っている。	原則は週2回の入浴であるが、家族からの情報により週3回の入浴をケアプランにも反映させるなど、一人ひとりに合わせて支援し、入浴を楽しんでもらっている。時間も午前であったり午後であったり臨機応変に対応している。柚子湯などの変わり湯や、誕生日にお気に入りの入浴剤をプレゼントして楽しんでもらうなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間帯良く休んでいただけるよう、日中の活動量を増やし体操やレク、外出などを積極的に行っている。また居室環境では、冬季には電気毛布、ご持参の枕のご利用等安心してお休みいただける環境を工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の手順書を作成し、配薬時にはダブルチェックを行い、定期処方日には調剤薬局とのダブルチェックを実施。内服薬変更後にはミーティングにて経過を記録に残し次回受診、往診時医師へ報告を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事企画の際にはご希望を伺いながら計画をし、日々の関りの中からもお話を伺うことでお客様個々に得意分野を活かしながら家事作業や園芸、体操などに取り組まれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの感染状況を確認し感染対応を行いながら、外出の機会を設けている。お客様個々にご希望を伺いながら企画を行い、ご家族様へ外出の際にはご相談とご報告を行っている。	感染防止対策を取りながら、気分転換も含めて少人数で出かけて、海を見たり、ショッピングセンターなどに行き買い物したりしている。また、近くの神社に行った際に丁寧に参拝していた利用者の様子から、市内の大きな神社(護国神社)へお連れして喜ばれたりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族へ事前にご相談を行い、訪問販売やお買い物の際には立て替えにてお買物をされている。支払いの際には職員と共に行うことで、お客様ご自身も安心してお買物を楽しまれている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会制限がある中でも窓越し面会やWEB面会、いつでもお電話にてご家族様とお話ができる機会を設けている。また、ご家族様宛にお客様がお手紙を書かれる機会や、お誕生日カードを手作りしご郵送されるなどご家族との関わりの機会を設けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じていただけるよう、お客様と共に季節のお花のお買い物や、季節の貼り絵を皆で作成している。また、歌詞カードやイベントのお写真などフロアに設置しお客様がいつでも回覧できるよう工夫を行っている。	利用者と職員と一緒に季節ごとに貼り絵等の作品を作り、飾っている。イベント時の写真なども、車いすの利用者の目線に合わせて低い位置で飾っている。職員の顔写真を貼ってわかりやすく紹介しているコーナーもある。フロアにはゆったりとテーブルやイスを配置して思い思いに過ごしてもらえ工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはソファがあり、くつろぎ過ごされる方や、テレビをご覧になり過ごされる方もいらっしゃる。居室ではご持参されたテレビをご覧になり過ごされる方もおられる。談笑時には椅子の移動や追加を行うことで、皆でお話ができる環境も整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族、ご本人様とご入居時にはご相談を行い居室のレイアウトを決めている。居室の扉にはご自宅の暖簾を使用されることで、居室の場所を認識されている方もおり、居室内ではご家族とのお写真や家具の設置などを行っている。お掃除もお客様と行うことで、整理整頓などを行っている。	居室は利用者一人ひとりが過ごしやすいうように、家族と相談しながら利用者本人の希望に合わせて整えている。コロナ禍ではあるが、衣類の入替等にも家族の協力を得ている。毎日の清掃は、掃除機その他、モップでの床拭き、さらに除菌シートで拭いている。換気、温度などの調整にも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のレイアウト変更時や移乗介助方法の検討時など必要時には施設内の理学療法士、お食事の検討時には言語聴覚士や栄養士など専門職の助言を求めながら福祉用具やケア内容の検討を行えている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				